

移動式クレーンを使用して 足場解体作業中、風に煽られて補ジブが折損

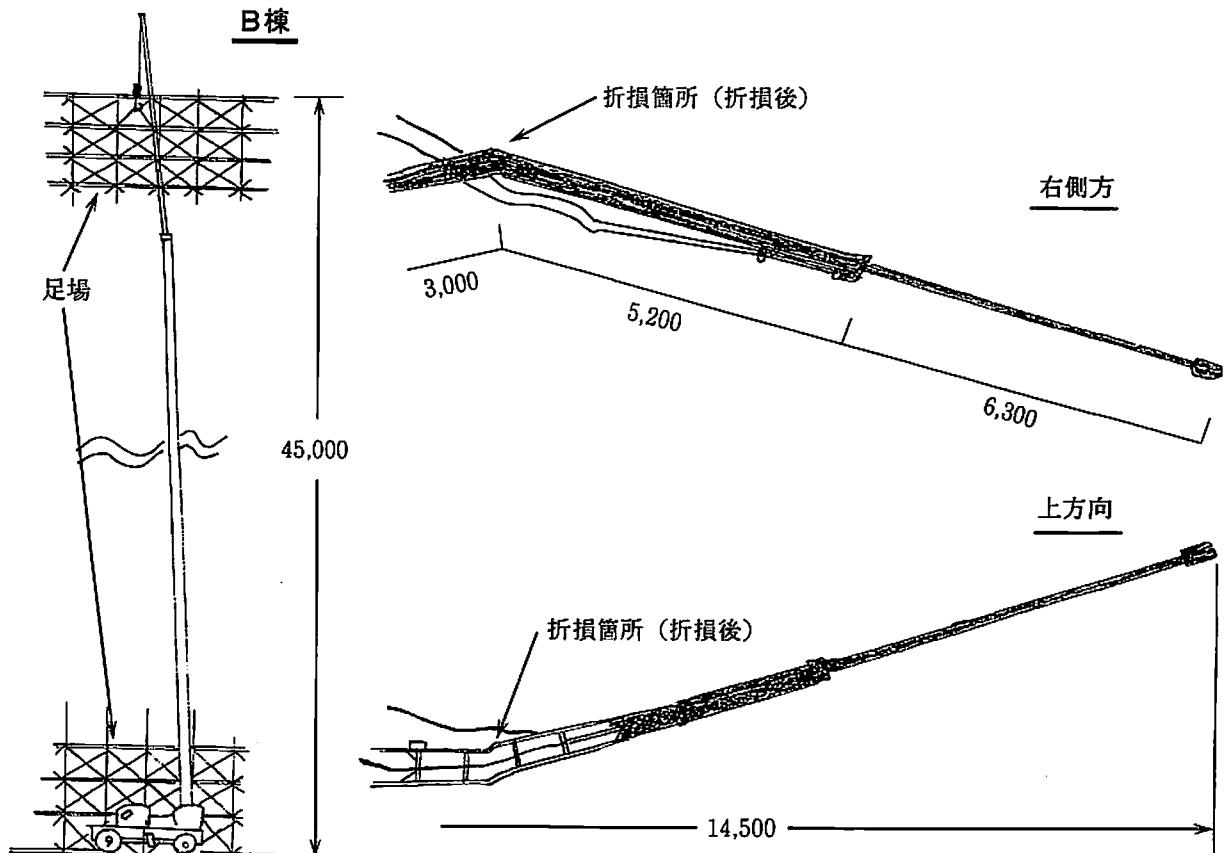
1. 事故発生状況

被災当日、午前8時30分頃からA棟南側足場（足場全体の長さ約90m、高さ約45m、25段枠組足場）の足場解体のため、上部作業に玉掛者2名、合図者1名、他1名、地上作業に玉掛者1名、作業主任者1名、他4名及び移動式クレーンオペレーター1名により足場解体作業を開始した。

午前中に、A棟南側足場の中央より右側の中段部分、午後の作業開始早々にその下段部分の足場の解体を終了した。

引き続き、A棟時と同じ人員配置でB棟

西側足場（足場はA棟と同じ構成）の中央の上段部分の解体作業に移り、移動式クレーンで解体した足場を吊り下げて下ろそうと左旋回させたところ、吊り荷が風に煽られて、巻上げワイヤロープが補ジブに巻込むように後方に流され、吊り荷が主ジブヘッド付近に当たった後、巻上げ用ワイヤロープと吊り荷が移動式クレーンの後方に大きく流れ、補ジブの基から約1.5mの箇所吊り荷が激突しその部分が折損した。吊り荷、フック及び補巻ワイヤロープは場外に流され、補巻ワイヤロープは公道上の電線に引っかかり、吊り荷とフックは民家の屋根上に落下した。



なお、当日の気象状況は、風は北向き、平均風速は 14.0～15.0m/s であった。

2. 事故を起こした移動式クレーンの種類、能力及び事故時の仕様

(1) 種類：ホイールクレーン（ジブが伸縮するもの）

(2) つり上げ荷重：45.0t

(3) 補ジブ：9.0m～14.5m（主ジブに装着して使用）

材料：60キロ級高張力鋼（JIS G 3106 5種相当）

ワイヤロープの種類、構成：

6×Fi(29)IWRC

ワイヤロープの切断荷重：21.72t

(4) 事故発生時の仕様：

アウトリガ最大張出，39.0m + 14.5m
補ジブ，作業半径 9m 以内，オフセット
5° において 2.28t

3. 事故発生原因

A棟南側の足場設置箇所は、事故当日の風向きでは建屋が風防壁となり、荷卸し場所も何等、解体作業に影響を与えるものではなかった。

しかし、午後からのB棟西側の足場解体作業では、移動式クレーンの設置箇所を変えない限り、移動式クレーン旋回ジブ方向が、向かい風を受ける形となった。

建屋西側は風防壁の役目を成さなかったため、この足場解体作業では風の影響を受ける箇所であった。

4. 事故防止対策

現場の状況に応じ作業内容、作業手順の見直しを行い、それに基づいた安全作業の打合わせの後、作業を行わせること。